

キンメダイ 天皇海山海域

Splendid alfonso *Beryx splendens*



管理・関係機関

北太平洋漁業委員会 (NPFC)

生物学的特性

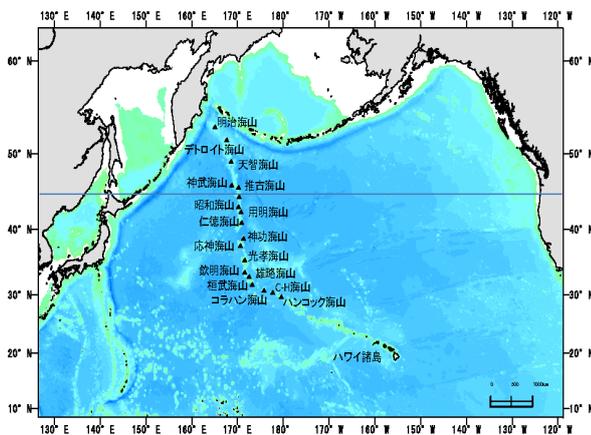
- 最大体長・体重：尾又長 53 cm・体重 2 kg
- 寿命：20 歳以上
- 性成熟年齢：4~5 歳（日本沿岸における繁殖開始年齢）
- 産卵期・産卵場：夏、産卵場は不明
- 索餌期・索餌場：着底後は日周鉛直運移動を行い、主に夜間に索餌
- 食性：浮遊期は不明。着底後は魚類、エビ類等
- 捕食者：不明

利用・用途

冷凍ラウンドで水揚げされ、鮮魚、干物、煮付け等として販売。

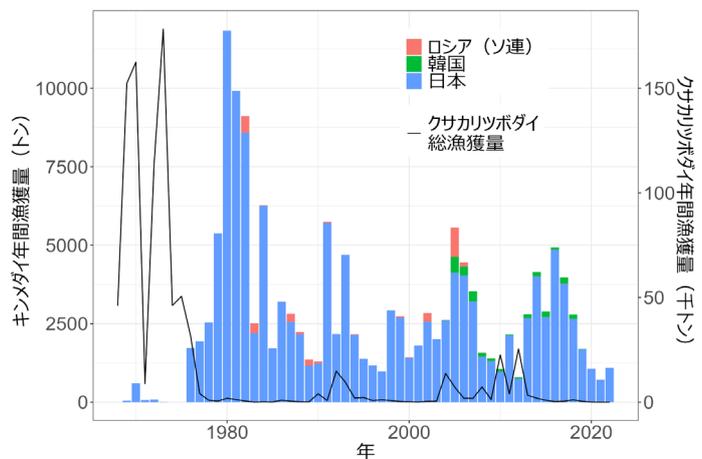
漁業の特徴

本資源は、天皇海山海域において操業を行っている我が国の底びき網・底刺網漁業の対象魚種である。最も重要な漁獲対象種はクサカリツボダイであるが、卓越加入の有無により漁獲量の年変動が極端に大きいため、不漁時には本資源が主な代替資源として漁獲されている。底びき網漁船は、頂上が平坦な海山の頂上部（水深 300~500 m）で、底刺網漁船は海山斜面域や水深が大きい海山で操業を行っている。同海域では、1967 年に旧ソ連が漁場開発し、我が国の漁船は 1969 年から操業を開始した。我が国の漁船数は 2013 年には底びき網船 6 隻、底刺網船 1 隻であったが、2020 年以降は底びき網船 1 隻、底刺網船 1 隻に減少している。ロシア漁船は 1982~2009 年の間、底びき網及び底はえ縄によって本資源を漁獲していたが、近年の漁獲は報告されていない。2004 年以降は韓国の底びき網漁船が参入したが、近年の漁獲量は 200 トンに満たず、2020 年以降は操業していない。



天皇海山列の地図

コラハン海山から推古海山南バンクまでが底魚漁場として利用されているが、キンメダイが漁獲されるのは仁徳海山以南である。



天皇海山海域におけるキンメダイの国別漁獲量及びクサカリツボダイの総漁獲量の推移 (1969~2021 年)

漁獲の動向
<p>本資源の漁獲は天皇海山漁場の開発から 10 年を経てクサカリツボダイの漁獲量が激減した 1970 年代後半から始まり、1980～1982 年には年間 1 万トン前後に達した。一方、1985 年以降の我が国の漁獲量は、1991 年を除けば年間 5 千トンを下回っている。最近ではクサカリツボダイの卓越加入年であった 2010 年、2012 年の漁獲量が 1 千トン以下と少なかったのに対し、クサカリツボダイ加入量が極めて少なく漁獲量が低迷している 2013 年以降は年間漁獲量が増加し、2016 年には 4,851 トンに達した。しかし、それ以降は減少を続けている。</p> <p>天皇海山海域の底びき網漁業の漁獲開始年齢は 1 歳未満（尾叉長 10 cm 前後）、体長の最頻値は概ね 1～2 歳（尾叉長 18～24 cm）に相当し、着底直後の未成魚から漁獲している。また、ここ数年で尾叉長 30 cm 以上の成魚の割合が経年的に減少しており、漁獲物がさらに小型魚に偏る傾向にある。一方、底刺網の漁獲開始年齢は 1～2 歳（尾叉長 20 cm 前後）、最頻値は概ね 4～7 歳（尾叉長 28～31 cm）である。</p>

資源状態
<p>余剰生産モデルを用いた推定結果によれば、2008 年時点で漁獲圧の 10 年平均は F_{MSY} より 20～28% 大きい過剰漁獲であり、推定資源量も B_{MSY} より小さく乱獲状態と推定された。ただしこの解析には問題点も指摘されており、現状は不明。</p>

管理方策
<p>2016 年に NPFC の保存管理措置として、漁船数の凍結と 11～12 月の操業禁止、一部海域の禁漁等が採択された。これは 2009 年からの暫定措置を引き継いだものである。また 2019 年より順応的管理措置の一部としてキンメダイまたはクサカリツボダイを対象とする操業を行う場合に、底びき網のコッドエンド目合い 13 cm 以上とする網目規制が導入されている。これに加えて、我が国では、天皇海山水域における底魚漁業の許可の条件として、底刺網は網目の結節から結節までの長さは 12 cm 以上、底びき網の総曳網時間は 5,600 時間以内等の制限がある。</p> <p>NPFC では本種をクサカリツボダイと並ぶ底魚資源評価の優先対象種に掲げており、現状の管理措置の有効性評価が求められている。</p>

キンメダイ（天皇海山海域）の資源の現況（要約表）	
世界の漁獲量 （最近 5 年間）	713～2,791 トン 最近（2022）年：1,097 トン 平均：1,473 トン（2018～2022 年）
我が国の漁獲量 （最近 5 年間）	713～2,652 トン 最近（2022）年：1,097 トン 平均：1,442 トン（2018～2022 年）
資源評価の方法	余剰生産モデル
資源の状態 （資源評価結果）	2008 年時点で漁獲圧の 10 年平均は F_{MSY} より 20～28% 大きい過剰漁獲であり、推定資源量も B_{MSY} より小さく乱獲状態と推定された。ただしこの解析には問題点も指摘されており、現状は不明。
管理目標	検討中
管理措置	<p>○NPFC 保存管理措置：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・操業許可漁船数の増加禁止（我が国＝底びき網：7 隻以内、底刺網：1 隻以内） ・北緯 45 度以北における操業禁止 ・水深 1,500 m 以深での操業禁止 ・C-H 海山及び光孝海山南東部の閉鎖 ・底刺網を海底から 70 cm 以上離して敷設する ・底びき網のコッドエンド目合い 13 cm 以上（5 kg の張力をかけて計測） ・11～12 月（クサカリツボダイ産卵期）の禁漁 ・科学オブザーバーの 100% 乗船 <p>○我が国自主措置：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刺網の網目の結節から結節までの長さ 12 cm 以上（許可の条件） ・漁獲努力量上限の設定（底びき網年間総曳網時間 5,600 時間以内）
管理機関・関係機関	NPFC
最新の資源評価年	2008 年
次回の資源評価年	未定